

## ノグチゲラに関する研究 (I)

## — 育雛について —

琉球大学農学部 金城 道男・中須賀常雄  
馬場 繁幸・大西 信吾

## 1. はじめに

ノグチゲラ (*Sapheopipo noguchii*) は沖縄本島北部の山林にのみ生息する1属1種のキツツキ科の鳥で、国の天然記念物に指定されている。近年山林の開発が進み、その生息地は狭められ、絶滅の危機に瀕していると言われているが、その生態についての資料は少なく、まだ解明されていない点が多い。筆者らは、1985年から87年までの3年間、生態観察を行い、幾らかの資料を得ることができた。今回は育雛について報告する。

## 2. 調査地及び方法

沖縄本島北部のヤンバルと呼ばれるこの地域の森林はイタジイが優占し、イスノキ、タブノキ、オキナウウラジロガシなど多くの樹種で構成された天然林である。その中の与那嶺岳、照首山、西銘岳等の周辺部で調査を行った。

観察には8倍の双眼鏡や25倍の望遠鏡を用い、親鳥へ攪乱を与えないよう配慮しながら、その行動を記録した。なお、観察時間は356時間であった。

## 3. 結果及び考察

育雛期間については図-1に示したように育雛途中からの観察がほとんどで、1987年の我地No.1のみ巣造り時から観察できた。育雛期間は29日前後であった。また巣立ちの時期にはバラツキがあり、85年、87年の我地No.1における観察では5月中旬、86年に関しては5月下旬から6月上旬であった。

抱卵期から巣立ち近い日まで、すべて雄が夜間巢内に滞留した。

雛へ与えられた餌の種類を表-1にまとめた。餌のほとんどは植物の果実と節足動物であり、例外的にヤモリ、カサマイマイ、キノコの断片などが認められた。

クモはすべて徘徊性のものであり、セミの成虫は観察されず、終齢幼虫のみであった。タブノキ、ヤマモモの実実は成熟、未熟とも認められた。

雌雄が与える餌の種類には偏りがあった。そこで、年別にまとめて図-2とした。

雌が与える餌は、雄のそれに比べて小さく識別が困難なために、種不明の餌の比率が高くなった。

植物の果実には年ごとに豊凶があり、これを反映して85年と87年にはタブの実、86年はヤマモモが主であった。

ノグチゲラは餌の種類や大きさに関係なく、嘴に1個だけくわえて給餌を行う。他の日本産キツツキでは、嘴に1匹しか餌をくわえて来ない種はオオアカゲラだけであり、そのオオアカゲラは雛へもっぱらカミキリの幼虫を与える。木をつついて採餌を行うため1回に1匹である<sup>4)</sup>。しかし、ノグチゲラは地表にいるクモ、コオロギ、セミの幼虫をついばんでくるにもかかわらず、1匹だけである。これは餌が多種類にわたり、かつ不定形であり、その採餌方法も倒木や地表面をついたり、落葉を嘴で払い除けたりと、餌をくわえたままでは、次の採餌を行うのに効率が悪くなると考えられる。アカゲラやコゲラは食葉性の幼虫を1回に何匹もくわえてくるが<sup>4)</sup>、これは餌が一定の形をしていてついでにだけ良いためと考えられる。

ノグチゲラの1巣から巣立つ雛の数は、これまでの観察や報告によると1~3羽で<sup>1,2,3)</sup>、クラッチサイズにもさほどの差はないと思われる。前述したように、親は1回に複数個の餌をくわえられないので、餌運びに多くのエネルギーを費やし、そのために2羽程度の雛しか育てられないと推定される。

雛へ与える餌の種類に雌雄で明らかな違いが見られた(図-2)。雄の運んでくる餌の半分はクモとセミの幼虫であった。雌の餌の多くは他のキツツキと同様カミキリ等の幼虫であったにもかかわらず、地表へ降

りているのも数多く観察された。雄では地表採餌が、雄の全給餌回数の半分以上を占めていた。そのうち、土の中から採ったセミの幼虫が雄の餌全体に占める割合は約1/4であった。しかし、雌では3年間の観察でわずか3例のみであった。雌雄による餌の種類の違いは森林空間利用の違いに関連が深いと思われる。テリトリーの防衛という面からみると、樹幹部または高所にいるほうが地表で採餌を行うより、侵入個体（他のノグチゲラ、天敵）の早期発見・追撃、ドラミングによるなわばり誇示などに有利と考えられる。これらは一般に雄の役目である場合が多いが<sup>5)</sup>、ノグチゲラではドラミングがよく観察されたのは雌であり、また、侵入個体に対して追撃を行ったのも雌であった。このことはノグチゲラの生態に重要な意味をもつと考えられる。

今後の課題としては、雛から成鳥への成長過程、番

い形成、巣作り、クラッチサイズ、テリトリーの広さ、生息数、非繁殖期の行動等、不明な点が多く残されているので、一つずつ明らかにしてゆきたいと考えている。

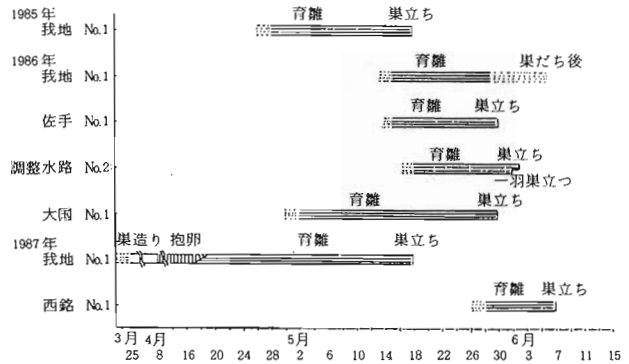
引用文献

- (1) 安座間安史・島袋徳正：沖縄生物学会誌 22, 79～90, 1987
- (2) 池原貞雄ら：ノグチゲラ実態調査速報 3, pp.73, 1977
- (3) ———：沖縄の自然とノグチゲラ pp.260, 汐文社, 東京, 1981
- (4) 松岡 茂：アニマ, 144, 72～77, 1985
- (5) 百瀬 浩：アニマ, 144, 87～89, 1985

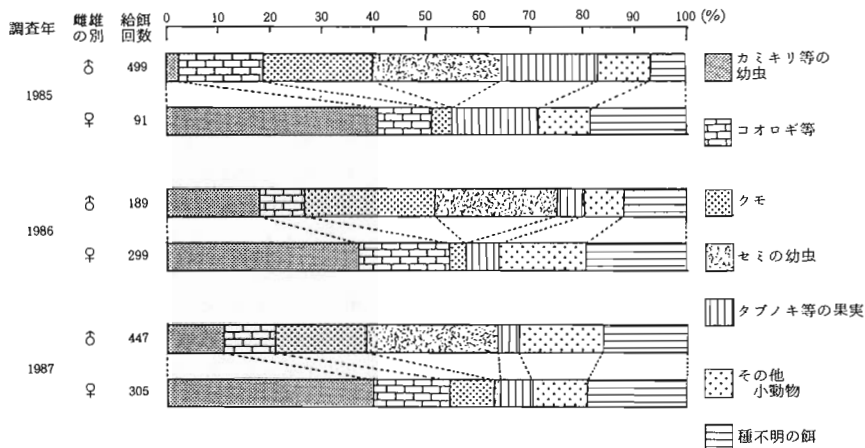
表一 雛へ与えられた餌の種類

餌の種類	表示名 <sup>※</sup>
カミキリの幼虫 クワガタの幼虫	カミキリ等の幼虫
コオロギ カマドウマ オカダンゴムシ	コオロギ等
コモリグモ	クモ
セミの終齢幼虫	セミの幼虫
タブノキの果実 リュウキュウイチゴの果実	タブノキ等の果実
昆虫 アブ ヤスデ シロアリ ネズミガイ 不明昆虫	上記以外の直物目 その他小動物
種不明	種不明

※ 本文中での表がる



図一 繁殖期間 (実線は観察期間)



図二 雛へ与えられた餌の種類雌雄による比較